

# 本牧で施設整備、推進

## 食品がメイン貨物

ダイワコーポレーション

(本社・東京、曾根和光社長)は、横浜港の本牧ふ頭で拠点整備を進めている。昨年には2棟目となる大型物流施設を開設。需要の高まる同地域に拠点を拡充し、食品を中心に輸入貨物の取り込みを拡大する。



昨年10月に開設した「横浜本牧第2営業所」

昨年10月開設の「横浜本

牧第2営業所」の所在地は横浜市中央区錦町9ノ3。敷地面積約1万4400平方メートル。6階建て、延べ床面積約2万8600平方メートルのうち、同社が約1万6400平方メートルを運営する。来年3月から高級テーブルウェア

近隣で物流需要が高まる

中、「(本牧は)長年関心を持っていたエリア。交通の利便性が良く、(大黒ふ頭などに比べて)人材を確保しやすい点も魅力だった」と曾根社長。三菱商事都市開発の大型施設(延べ床面積約6万8400平方メートル)を賃貸し、平成28年1月に「横浜本牧営業所」を稼働した。

製品メーカーの業務を受託し、輸入商品の保管、流通加工、配送手配などを手掛ける。

### 他社に先駆け て商圏を確保

同社は長年、京浜港周辺で拠点整備を行っており、今後も本牧ふ頭を重点開発エリアに位置付ける。曾根社長は「同業他社が拠点を開発する前に先手を打ち、商圏を確保することが重要」とし、早期に3棟目となる新たな施設の開設を目指したいとしている。

同社が本牧ふ頭で本格的に業務を開始したのは約2年前。横浜港を生かし、1階を除く全階

層で商品の庫内業務を請け負う。

〔昨年開設の〕2棟目の新拠点は別の商品を扱うが、本牧で拡大を目指すのは食品。大口取引先と契約できたことにより、今後は顧客の調達物流を展開することも考えられる(曾根社長)。

また2つの営業所が約1・5キロの距離に立地することで、新たな取り組みも可能に。一例が拠点間人材の有効活用で、業務波動を時間単位で管理。状況に応じて倉庫作業員を融通し合う仕組みづくりを検討していく。